

おはようございます。今日も「他者と向き合う」シリーズです。

先日「他者と向き合う」ことは原理的に出来ないと申し上げました。元来他者と自分は一体だからです。ところが人間は「他者と向き合う」ことが本性上においても出来ません。

人間は他者に出会った瞬間、瞬時に自分との関係において相手を捉えます。先生であるとか、生徒であるとか、上級生であるとか。つまり役割において相手を捉えるということです。これが分からないとどのように振る舞っていいか分かりませんから、とても重要なことです。

それと同時にその相手に対して自分の理解した人間像でもって対応します。こうした相手についてのイメージがなければ距離感の取りようがありません。ですからこれも相手と接するときには必須です。

しかしそうだとすると、我々が向き合っているのは相手、つまり他者そのものではなく、相手の役割であり、自分が作った相手のイメージだということになります。つまり人間は本性上においても「他者と向き合う」ことはできません。

続きはこの次です。本日もよろしくお願いいたします。